

ビクセンスマトラ日食 ツアー報告

(株)ビクセン企画開発室
伊藤 崇弘

〈はじめに〉

今回のビクセン日食ツアーはフィリピンの政情不安により、観測地をインドネシア、南スマトラパレンバン市に選び、3月16日成田発の4泊5日の日程にて行われました。

〈観測機材〉

個人参加を主体としているため、系統立った観測はできませんでしたが、ビクセンが用意した一般向け観測機材があり、各個人はスチール写真撮影やビデオ撮影を中心にプログラムを組んでようでした。一般向けに用意した観測機材は下記の通りです。

- ・短波受信機 (マイクミキシング付) 時報コマンド用
- ・80mmフローライト屈折望遠鏡..... 太陽投影用
- ・55mmフローライト屈折望遠鏡エクステンダー付..... スチール写真撮影用
- ・大型日食グラス (50cmX60cm) 部分食観察用
- ・ピンホールボード (30cmX60cm) ピンホール投影用
- ・シャドウバンドスクリーン (2mX3m) シャドウバンド観察用

〈観測地〉

出発前の現地からの情報は少なく、出発一週間ほど前になって、5年前同様、インドネシア政府がいくつかの観測地を有料 (U. S\$15) にて指定するむね連絡がありました。日食前日の下見では当初指定された場所の地盤が悪く、スコールによるぬかるみ化も予想されたため、宿泊のサンジャヤホテル北東6 kmにあるバクリ地区のサッカースタジアムに観測場所を設定しました。

〈日食当日の状況〉

当日は前夜のスコールが嘘のように晴れ、午前5時には西に低くなった南十字星を見ながら観測準備を始めていました。第一接触は6時半頃で高度5度と低く、地平線付近の雲のため確認ができませんでした。しかしながら6時45分以降からは太陽像が認められ、皆既中は最も天候が良くわずかに薄雲があったものの、巨大な二カ所のプロミネンスと、極小期特有の東西方向に明瞭に拡がったみごとなコロナを観測することができました。シャドウバンドはコントラストが薄く、第二接触時にわずかに東→西に向かうものを確認しましたが、第三接触は興奮のあまり欠測しました。なお、数値情報等につきましては、横浜こども科学館の遠山御幸氏にご協力いただきましたことを、この場を借りて御礼申し上げます。